

2019年度
事業計画書

目 次

1. 方 針	1
2. 事業計画	
(1) 科学振興のための研究助成と研究交流	2
(2) 日中未来共創プロジェクト	5
(3) 科学知識の普及・啓発	7

1. 方針

日本科学協会は1924(大正13)年に、前身である(財)科学知識普及会として設立され、雑誌『科学知識』の刊行を通し、難解な科学を多くの人々に少しでも解りやすく伝えることをそのミッションとしてきた。

昨今の日本の科学界を見ると、日本人がノーベル賞を受賞するなどトップレベルの研究水準にあることが示されている一方で、若手研究者のポストドク問題、基礎研究に没頭しにくい成果重視の風潮、研究データの改ざん問題など、多くの課題を抱えている。こうした状況の下、「研究者の育成」と「日中の文化交流」を二大テーマに据えながら、引き続き「社会と科学をつなぐ」「日中友好」という使命を果たすため、下記の通り、2019年度の事業計画を策定した。

(1) 科学を担う人材の育成

科学に関する若手研究者の育成を図るため、300件を超える科学研究に対する研究費の助成を行うとともに、発表会や書籍化を行うことで、研究成果の社会への発信に努める。また、専門化・細分化が進む研究者としての素養がバランスよく醸成できるよう各種研究会を主催し、社会が直面する課題の解決に活用されるよう、ウェブサイト等でその成果を広く公表する。更に、科学に対する好奇心旺盛な高校生を対象に、その道の専門家が主にメールで個別指導を行うサイエンスメンタープログラムを実施する。

(2) 日中関係の未来を担うグローバル人材の育成

中国においては、大学等に対する再活用図書の寄贈、大学生等を対象とした日本に関する「知識大会」、「読書感想文コンクール」、「研究論文コンクール」の各事業による知日派育成、日本においては、若者を対象とした中国に関する「作文コンクール」による知中派育成を図るとともに、各事業に係る日本招聘・中国訪問を連携実施することにより日中相互理解の促進を図り、両国関係の未来を共創できる環境を民間から整備する。

(3) 科学の魅力を社会に伝える

本会が制作した「科学実験のデータベース」「立方体地球の動画」「生命科学の電子テキスト」等の科学に関する情報や教材、もしくは、本会が主催するワークショップ等を通して、科学の不思議や面白さを知ってもらう機会を提供し、子供や学生、一般の方等に対して、科学的素養の醸成を図る。

2. 事業計画

(1) 事業名「科学振興のための研究助成と研究交流」

科学研究の将来を担う若手中心の人材の育成と、その研究を奨励し併せて研究交流の推進ならびに研究成果の社会還元に努めることにより、科学振興のさらなる充実を図る。

【日本財団助成事業】

① 若手研究者の研究奨励

これまで特定分野の研究として独立して募集してきた「海洋・船舶科学研究」は、それぞれの分野を窓口とする募集に切り替え、申請研究の内容の広がりを図る。

イ. 学術研究助成

イ) 実施内容：萌芽性、新規性または独創性のある他からの助成が受け難い研究に対して助成を行う。

ロ) 募集方法：一般公募による募集

ハ) 対象となる研究：人文・社会科学および自然科学（ただし、医学を除く）に関する研究
※各分野の中に「海に関係する研究」含む

ニ) 対象者：大学院生あるいは大学等の所属機関で非常勤・任期付き雇用研究者であって、35歳以下の者（外国人留学生を含む）
※「海に関係する研究」は35歳以下の正規雇用者を含む

ホ) 助成金額：約650千円/件（助成予定件数 290件）

② 特定分野の研究奨励

イ. 実践研究助成

イ) 実施内容：教育・学習・自立支援等を行う様々な組織・団体（NPOを含む）において、その実践の場における社会的要請の高い研究への支援と、質的向上を目指して助成を行う。

ロ) 募集方法：一般公募による募集

ハ) 対象となる研究

a. 教員・NPO職員等が行う問題解決型研究：

学校、NPOなどに所属している者が、その活動において直面している社会的諸問題の解決に向けて行う実践的な研究：

b. 学芸員・司書等が行う調査・研究：

学芸員・司書等が博物館や図書館等の生涯学習施設の活性化に資するために行う調査・研究

ニ) 対象者：専門的立場にある者（教員、学芸員、図書館司書、カウンセラー、指導員等）
あるいは問題解決に取り組んでいる当事者など

ホ) 助成金額：約250千円/件（助成予定件数 20件）

③ 研究助成の推進

- イ) 実施内容：研究分野の動向や研究環境の変化などを勘案した上で助成方針を定め、それに即した募集および審査・選考を行い、本会独自の助成姿勢を示し研究助成の意義を高める。
- ロ) 2020年度「笹川科学研究助成」助成計画策定
 - a. 募集要項、選考方針等の策定
 - b. 研究計画内容の評価ならびに審査・選考
 - c. 2020年度の研究助成計画の策定
- ハ) 笹川科学研究助成の研究成果の管理
 - 笹川科学研究助成を受けた者（笹川助成研究者）から提出された論文別刷等研究成果の整備・保管
- ニ) 研究助成実績に関する資料の整備
 - 「笹川科学研究助成」の実績についての分析および統計資料等の整備

④ 研究成果公表支援

- イ. 海外発表助成
 - イ) 2019年度助成
 - a. 実施内容：海外研究集会（学会等を含む）において、研究成果の発表を行う研究者に対し、渡航費など必要な経費の助成を年4回に分けて行う。
 - b. 対象者：笹川科学研究助成を受けた国内に居住する研究者
 - c. 助成金額：約200千円/件（助成予定件数 70件）
 - ロ) 2020年度募集周知および第1期助成計画策定

⑤ 「笹川科学研究奨励賞」受賞研究発表会の開催

- イ. 「笹川科学研究奨励賞」
 - イ) 対象件数：2018年度助成者のうち、領域ごとに選出された計16名以内
 - ロ) 賞の趣旨：単に研究の内容や成果のみに捉われず、研究に対する取り組み姿勢など笹川科学研究助成らしい視点も加えて評価し、表彰することによって若手研究者の研究意欲を高める。
 - ハ) 選考：研究領域別選考委員会にて選考する。
 - ニ) 表彰内容：賞状および副賞各100千円
- ロ. 研究発表会の開催
 - イ) 開催時期：2019年4月下旬（下記の「研究者交流会」と同日開催）
 - ロ) 実施内容：「笹川科学研究奨励賞」受賞者による研究成果の発表と質疑応答
 - ハ) 参加者：笹川助成研究者、指導教官、関係者など約400名



⑥ 研究者交流会（研究奨励の会）の開催

イ. 開催時期：2019年4月下旬

ロ. 実施内容：助成決定の通知、来賓の挨拶、研究者の相談指導、研究者の相互交流

ハ. 参加者：2019年度助成者（自由参加）、来賓、指導教官、関係者など約400名

【自主事業（新規事業）】

研究成果の社会への発信や、笹川科学研究助成を受けた研究者（OB・OG）のフォローアップ事業の充実のため、2019年度には以下の二つの事業を新たに実施する。

⑦ 研究成果発表会の開催

イ) 開催時期：2019年9月（予定）

ロ) 実施内容：笹川科学研究助成を受け研究者として活躍しているOB・OG4～5名による研究成果の発表と質疑応答。海洋分野に関することをテーマとし、関心をもった企業に参加してもらう。

ハ) 実施方法：企業を会員としている海洋関係の社団法人と連携して企業が関心を持ちそうなテーマで研究成果発表会を開催する。発表者は、OB・OGに公募し選定する。

⑧ 一般書としての研究成果出版支援

イ) 実施内容：笹川科学研究助成を受けた研究者の研究内容を、一般の人たちに分かりやすく解説する一般科学書（新書版形式）として出版する。人文・社会から自然科学など幅広い“科学”を対象とする。

ロ) 実施方法：一般科学書の出版経験豊富な出版社と相互共同で実施する。本会は執筆候補者の選出までを行い、具体的な執筆と書籍出版は出版社が担当する。読みやすい一般科学書とするために、編集者による執筆内容のチェックと、必要に応じて書き方を指導する。

※公募・選考までの費用は本会が負担し、編集・出版費用は出版社が負担する。

ハ) 募集：笹川科学研究助成を受け、研究者として活躍した（している）OB・OGに出版企画書を公募し、専門研究者と一般科学書出版編集者による審査で、書籍化候補を決定する。

ニ) 出版件数：年間3件程度

事業費総額：290,700千円

【日本財団助成事業費 ①～⑥】

288,700千円（事業費：239,000千円、事業管理費：49,700千円）

【自主事業費 ⑦⑧】

2,000千円（事業管理費を含まず）

(2) 事業名「日中未来共創プロジェクト」

【日本財団助成事業】

日本国内で収集した教育・研究図書の中国の大学等への寄贈、中国の大学生を対象とした「日本知識大会」、中国及び日本の若者を対象とした各「作文コンクール」、さらに3事業に係る訪日・訪中プログラムを併せて実施することにより、将来を担う人材を育成し、日中相互理解の深化と友好関係の構築を図る。また、プロジェクト20周年記念事業を実施することにより、プロジェクトの充実と発展を図る。

① 図書寄贈

- イ. 実施内容：各方面への協力依頼を通じて日本で図書を収集し、選定・調整のうえ要望に基づき中国の大学等に継続寄贈する。
- ロ. 図書の収集、寄贈
 - イ) 収集：8万冊/年
 - ロ) 寄贈：8万冊/年
- ハ. 寄贈対象：中国82大学等
- ニ. 寄贈方法：中継寄贈システムにより集約寄贈

② 笹川杯全国大学日本知識大会

- イ. 実施内容：中国全土の大学の日本語学習者が一堂に会して日本知識や日本語能力を検証する機会となる日本知識大会を開催し、優勝者等を日本に招聘する。
- ロ. 参加者：中国全土の約100大学の日本語学習者
- ハ. 日本招聘：優勝者等20名



③ 作文コンクール

- イ. 笹川杯本を味わい日本を知る作文コンクール（日本語版、中国語版）
 - イ) 実施内容：中国全土の若者を対象として、日本関係図書等の感想文を日本語、中国語で募集する作文コンクールを開催し、優勝者等を日本に招聘する。
 - ロ) 共催機関：人民中国雑誌社（日本語版）
上海交通大学図書館（中国語版）
 - ハ) 応募資格：満18歳～35歳の中国国民（日本語版）
中国の大学生（中国語版）※中国全土の大学図書館を窓口とし応募
 - ニ) 日本招聘：優勝者等10名

ロ. P a n d a 杯全日本青年作文コンクール

イ) 実施内容：日本全国の若者を対象として、“中国”をテーマに日本語による作文コンクールを開催し、優秀賞受賞者等を中国に派遣する。

ロ) 共催機関：人民中国雑誌社、中華人民共和国駐日日本国大使館

ハ) 応募資格：満16歳～35歳の日本人

ニ) 中国訪問：優秀賞受賞等26名

④ プロジェクト20周年記念事業

イ. 実施内容：プロジェクトの各部門関係者、有識者等を対象として討論会及び功労者表彰式等のイベントを中国で開催するとともに20周年記念誌を発行する。

ロ. 参加者：日中関係者約100名

⑤ 新規関連事業等の企画・立案

【笹川科学活性化基金事業】

中国全土の日本語学科設置大学の日本語専攻学生を対象に、中国の国家レベルの機関との共催により「日本研究論文コンクール」を開催し、日本に関する専門研究や論文執筆等、またこれに係る日本招聘を通じて、日中関係のキーパーソンとなる人材の育成を図り、安定した日中関係の未来構築に寄与する。

⑤ 「笹川杯日本研究論文コンクール」

イ. 実施内容：中国全土の大学の日本語専攻の学部生を対象に日本に関する研究論文コンクールを開催し、成績優秀者等を日本に招聘する。

ロ. 共催機関：中国教育部大学日本語専攻教学指導分科委員会、中国日語教学研究会、吉林大学

ハ. 応募資格：中国全土の大学の日本語専攻の学部生

ニ. 日本招聘：成績上位4名（上限）

事業費総額：117,070千円

【日本財団助成事業費 ①～④】

110,960千円（事業費：64,790千円、事業管理費：46,170千円）

【笹川科学活性化基金事業 ⑤】

6,110千円（事業管理費を含まず）

(3) 事業名「科学知識の普及・啓発」

高度な科学・技術社会を健全に維持するには、敬遠されがちな科学・技術への関心を高める必要から、次代の科学・技術を担う人材を育成し、難解となりがちな科学・技術を分かりやすく身近な形で一般に伝える事業を行い科学知識の普及・啓発に資するものである。

【モーターボート競走法制定40周年記念基金事業】

①「科学実験データベースの公開」

身近な生活のなかにも、実は密接なかかわりを持っている「科学」の世界を、ウェブサイトを通じて公開・発信し、科学・技術への関心や理解の向上に努める。

イ. 実施内容：科学実験のデータベースや、自然や文化に関する話題を、ウェブサイトを使って公開する。

イ)「科学実験データベース」の公開

科学実験や体験遊びを地域や家庭で、あるいは学校や科学クラブなどでも手軽に取り扱えるように、アイテムの選出を容易にする検索項目を設けて公開する。

ロ)「コラム」の公開

大人の知的好奇心や探究心を満たすとともに、子供たちの教育や指導にも活用できる自然や文化に関する様々な話題を公開する。

ハ) ウェブサイトのリニューアル

- ・自由研究や科学クラブのヒントなどの項目を新設
- ・デザインの変更（写真や動画を使うなど）

ロ. 実施方法：本件の公開に向けて当初から協働して作り上げてきた兵庫教育大学原体験教育研究会に委託して実施する。

② 地球科学の理解促進

身近な科学の面白さや不思議さを伝えるためのイベントを開催し、気象現象や地球科学の理解促進に努める。

イ. 実施内容：本会で制作した短編映像「Cubic Earth—もしも地球が立方体だったら—」を利用したワークショップを開催する。

ロ. ワークショップの開催

- イ) 開催日：2019年7月29日、2019年8月19日 計2回
- ロ) 対象者：小学校高学年～中学生及びその保護者 各80名程度
- ハ) 場所：日本科学未来館
- ニ) 講師：気象や理科教育の研究者



③ 中高生のためのサイエンスメンタープログラム

学校教育の枠にとらわれない高度な専門研究レベルの科学教育のプログラムを実施し、次代の科学・技術を担う人材を育成する。

- イ. 実施内容：科学に関心を持ち、個人もしくは小グループで科学研究を進めている中学3年生～高校生（メンティー）に対して、経験豊かな自然科学・応用科学の専門研究者（メンター）から、科学研究の基礎を一定期間学ぶことができる機会を提供する。
- ロ. 対象件数：20件程度
- ハ. 研究期間：原則半年～1年
- ニ. 研究発表会：年2回、研究発表会を開催する（8月と3月を予定）。
- ホ. 募集と審査・選考：年間を通して参加希望者を公募し、サイエンスメンター事業委員による審査・選考を行う。

【笹川科学活性化基金事業】

④ 生命科学テキスト「人間の生命科学」プロジェクト

現代社会を生きる人間にとって必須の基礎知識になっている生命科学について、本会独自のテキストを制作し、若い世代へ生命科学の基礎知識の普及・啓発に努める。

イ. 実施内容：制作したテキストの利用拡大にむけた普及活動を実施していくとともに、必要な改訂作業やコンテンツの充実などを図る。

イ) 普及活動：研究会委員からの紹介や、理科教育教員の勉強会・研修会での広報ツール配布、ウェブサイトのアクセスシステムの充実等により、一層の普及・利用拡大を推進する。

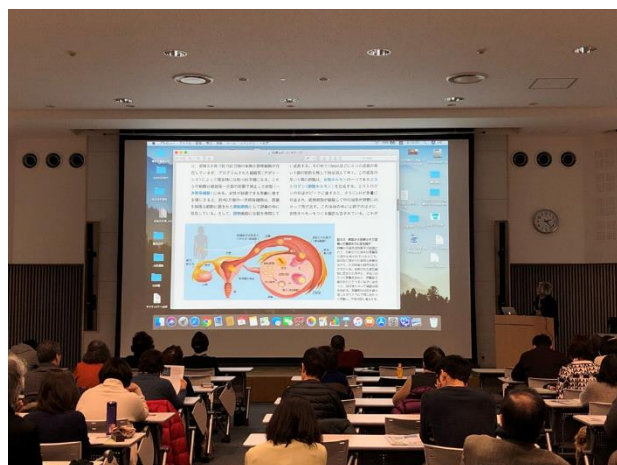
ロ) 改訂作業：トライアル授業の評価やアンケート等をもとに「より現場で利用しやすい」副教材となるよう必要な改訂を行う。なお、当初想定していなかった高校の授業での利用ニーズが非常に高かったことから、高校教員によるサブ改訂チームを新たに組織し、助言等をいただき、改訂に反映させる。

ロ. タイトル：「人間の生命科学—現代社会に生きるための基礎知識」

ハ. 編者：公益財団法人日本科学協会

ニ. 体裁：電子図書 ePUB 版、Web版

ホ. 特徴：「人間の生命」を軸にした従来の教科書とは異なるスタイルの副読本



⑤「科学隣接領域の研究」

研究者としての「素養」を育て、総合的な視野を持った「創造的な研究者」への育成を目指す。

イ. 実施内容：自然科学の枠を超えた領域の専門家で編成した研究会を開催し、宗教、倫理、アートを切り口に、科学研究や若手研究者の育成について議論し、その成果を講演会や出版によって発信する。

ロ. テーマ：科学と「倫理」、「アート」

ハ. 実施方法：

イ) 研究会

a. 「倫理」(1回) 「科学と倫理」のセミナー企画と「科学者三原則」を検討

b. 「アート」(3回) 科学の未来について議論を重ね、セミナーを企画

ロ) 講演会

研究者や研究者を取り巻く人々を対象に、研究会「科学と倫理」での成果を中心に、「研究者としてどうあるべきか」という身近な倫理的課題に対して、問題解決の一助となるようセミナーを開催する。

事業費総額：52,840千円(事業費：42,700千円、事業管理費：10,140千円)

【モーターボート競走法制定40周年記念基金事業 ①～③】

18,400千円

【笹川科学活性化基金事業 ④⑤】

24,300千円